

脳血管疾患 (前編)

看護師 吉村美由紀

【自己紹介】

吉村 美由紀(よしむら みゆき)

愛知県犬山市出身

看護学校卒業後、総合病院で7年半勤務

(循環器内科、呼吸器内科、内分泌内科、外科に勤務)

平成11年 訪問看護ステーションに勤務

平成12年 介護支援専門員資格取得

平成17年 訪問看護・介護支援専門員兼務

平成18年 医療法人へ転職し、訪問看護、居宅介護支援事業所兼務後法人本部にて小規模多機能型居宅介護、認知症対応型通所介護、グループホーム、地域密着型介護老人福祉施設等の開設・運営等に携わる

平成23年 愛知県認知症介護指導者研修終了、認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、小規模多機能サービス等計画作成担当者研修にて講師として携わる

平成31年 もう一度現場に戻りたい！と転職し、現在、住宅型有料老人ホーム併設の訪問看護事業所にて看護師として勤務中

【保有資格】 看護師、介護支援専門員、認知症介護指導者

脳血管疾患(前編)

1. 脳血管疾患とは
2. 脳血管疾患の後遺症
3. 脳血管疾患の予防
4. TIA(一過性脳虚血発作)について

脳血管疾患(後編)

5. 脳梗塞について
6. 脳出血について
7. 脳血管疾患の方へのケア

1. 脳血管疾患とは

脳の血管が障害を受けることによって生じる疾患の総称

【日本死因別年間死亡数】

1位	悪性新生物	24.3%
2位	心疾患	14.7%
3位	老衰	12.1%
4位	脳血管疾患	6.6%
5位	肺炎	4.8%

(厚生労働省「人口動態統計(確定数)」/2023年)

【要介護者が、介護が必要となった原因】

1位	認知症	18.1%
2位	脳血管疾患	15%
3位	高齢による衰弱	13.3%
4位	転倒、骨折	13%

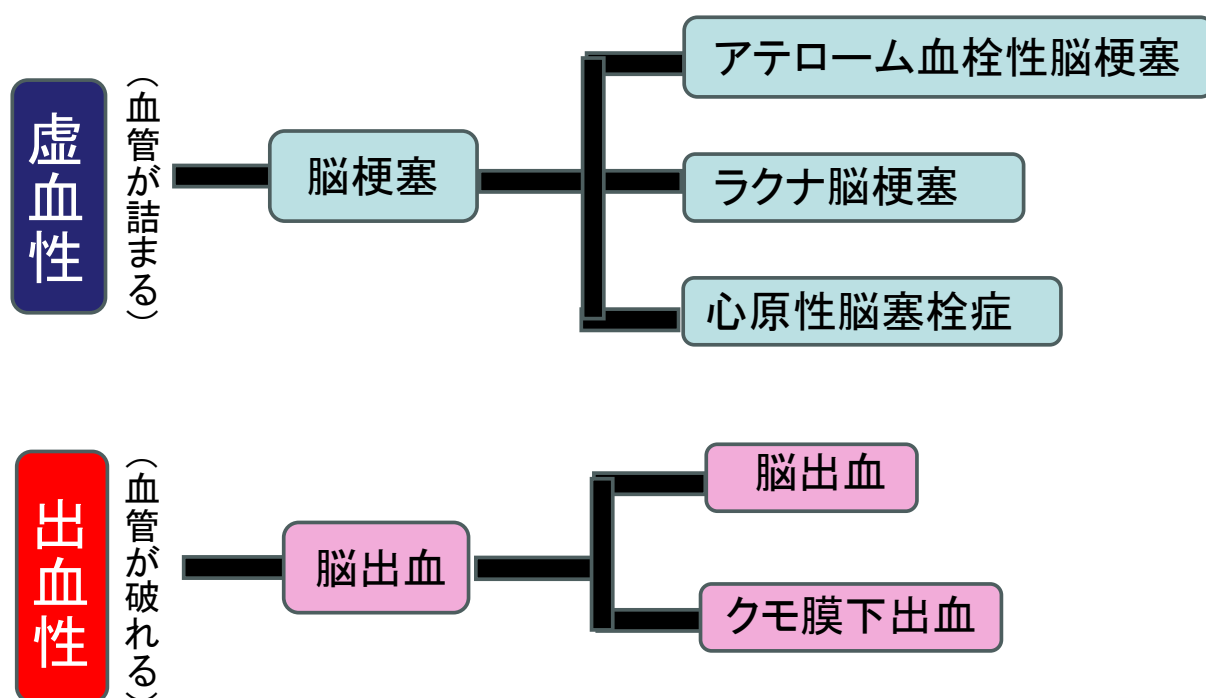
(令和3年版高齢社会白書より)

脳血管疾患の怖さは

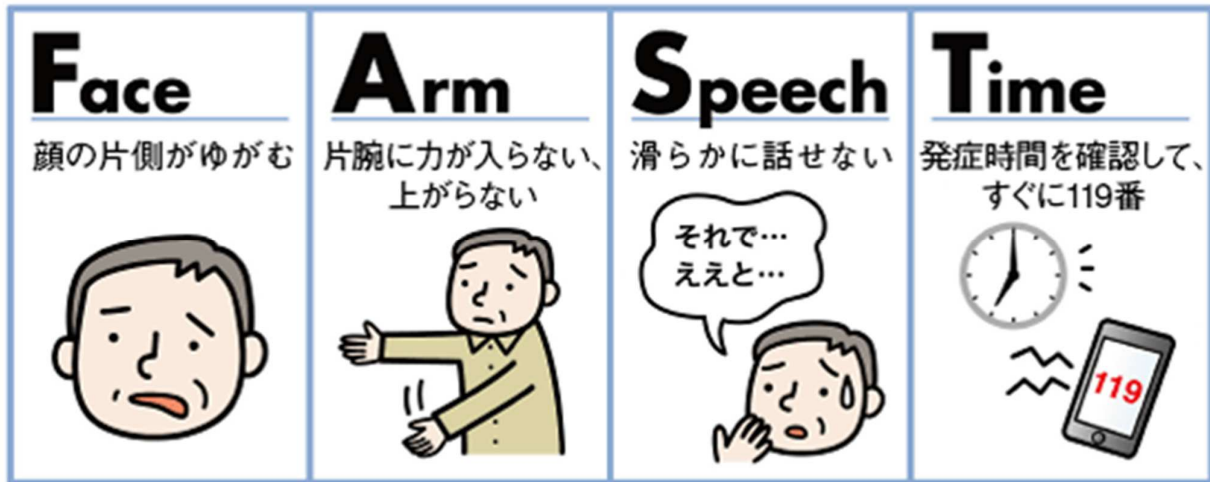
死亡率の他に、一命をとりとめても、
何らかの後遺症を残す人が多いこと

➡ 予防が大切！

【脳血管疾患の種類】



脳卒中のサイン「FAST」



<https://www.taisho-kenko.com/disease/491/>より引用

【脳出血発症を疑う症状】

- ・突然の激しい頭痛
- ・吐き気や嘔吐
- ・急な視覚障害や意識の混濁
- ・片側の手足の麻痺や感覚の低下

【脳梗塞の発症を疑う症状】

- ・片側の手足のしびれや力の入りにくさ
- ・言葉が不明瞭になる、理解が困難となる
- ・顔の片側の頬が下がるなど
- ・急な歩行困難やふらつき

脳血管疾患発症を疑う症状に気が付いたら・・・

バイタルサインを測定

いつから、どのような症状があるのかを確認

→医師に報告、相談！

時間の経過とともに、徐々に症状が進行していくこともある

➡ 症状のある利用者は安静にもらい、
しばらくは付き添い症状の変化を確認

短時間で明らかに症状が進行している
激しい頭痛、吐き気、嘔吐がある
意識障害がある
呼吸状態がおかしい

すぐに病院へ!!
(救急搬送)

2. 脳血管疾患の後遺症

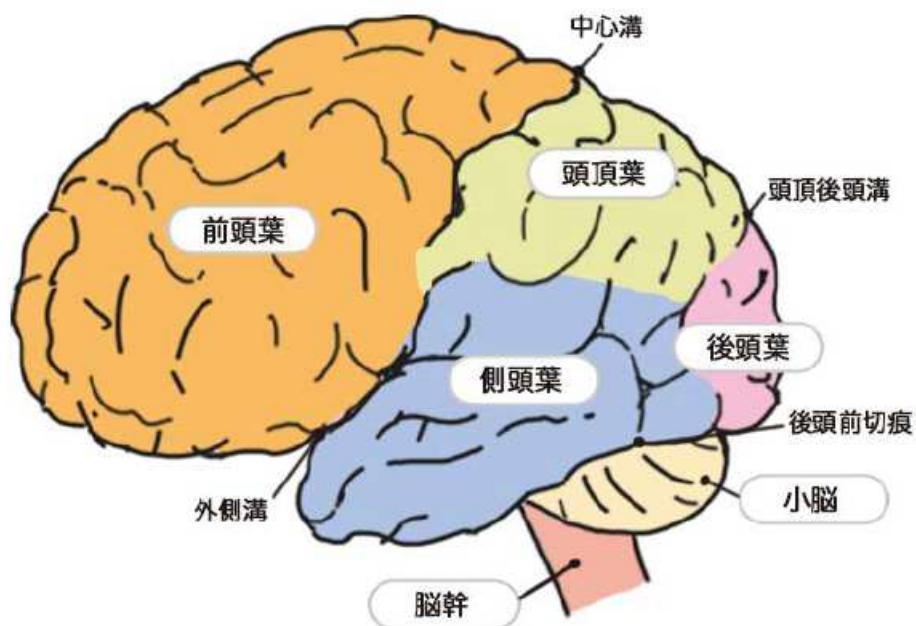
障害を受けた部位や程度で異なる

前頭葉: 思考、判断、計算、記憶などの知的機能
感情、人格など

頭頂葉: 痛みや熱さなどの感覚(体性感覚)、
行為、認知、判断など

側頭葉: 言語、記憶、聴覚、嗅覚、情緒、感情など

後頭葉: 視覚中枢



©W.H.

<https://img.kango-roo.com/upload/images/nursepedia/20230713nou01.png>より引用

中枢神経の構成

大脳皮質

知的活動（思考、判断、
創造などを司る

間脳

自律神経の働きの調節
意識・神経活動（嗅覚以外）
の中核

小脳

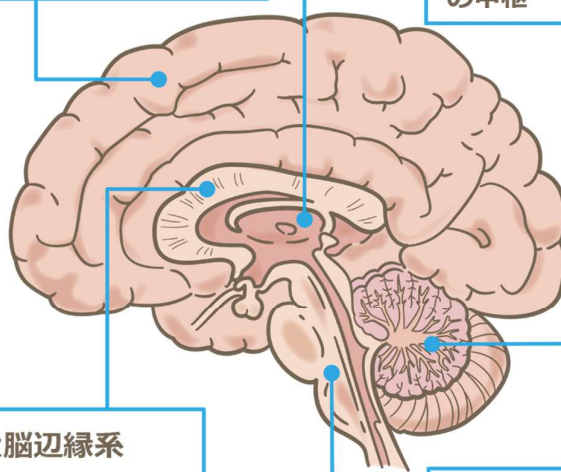
平衡感覚や
姿勢の調整、
運動の調整

大脳辺縁系

本能行動や感情、
記憶を司る

脳幹

呼吸、循環の制御



https://img.kango-roo.com/upload/images/ki/central_nervous_system-thumbnail-re1.jpgより引用

【脳血管疾患による主な後遺症】

- ◆意識障害
- ◆神経症状：麻痺、感覚障害、言語障害、嚥下障害
排尿障害、視野障害など
- ◆高次脳機能障害：失行、失認、失語、記憶障害など
- ◆精神症状：うつ状態、不安、感情失禁など
- ◆二次的な障害：筋力低下、関節拘縮、筋萎縮、褥瘡、
骨粗鬆症など

1つだけ現れることは少なく、多くの場合はいくつかの
障害が重なって現れる

【神経症状】

◆運動障害(麻痺)

- ・後遺症の中で最も多くみられる
- ・症状のほとんどは「半身麻痺」(片麻痺)
- ・他にも片側の上肢、下肢にだけに麻痺症状が出る
「単麻痺」もある
- ・自分の意思とは無関係に、手足などの一部、もしくは
全体が動いてしまう不随意運動
- ・痙縮：手足の筋肉が突っ張り、手の指が握り込まれて
開きにくいなどの症状
- ・運動失調：ふらつく、バランスがとれないため上手く
歩けない、めまいなどの症状

◆感覚障害

- ・麻痺などの運動障害が起こると、同時に感覚障害もおきがち
- ・手足のしびれ、触覚、痛覚、温度感覚等が鈍くなる
- ・逆に「痛覚過敏」となる場合もあり
小さな痛み、刺激を非常に強く感じてしまう
- ・障害を受けた部位によっては、麻痺を伴わずしびれだけが後遺症として残る場合もある
- ・特に視床出血では、「視床痛」という半身の強いしびれが残ることがある

◆言語障害

・構音障害

話すのに必要な唇、舌、声帯など発声・発語器官の麻痺や、運動の調節障害(失調)によって発声や発音がうまくできなくなる状態
(呂律がまわらない、舌がもつれる)

・失語症

構音器(気管、咽頭、口、口唇など)に異常がないのに言語機能が低下した状態

「話す」「書く」「聞いて理解する」「読んで理解する」
すべての機能が障害された状態＝「全失語」

◆嚥下障害

- ・食べ物や飲み物を上手く飲み込めなくなる



誤嚥性肺炎のリスク大

◆排尿障害

- ・自律神経障害、排尿に関わる神経や筋肉に異常を生じるためにおこる
- ・尿意を感じなくなる、失禁、頻尿、尿閉など

◆視野障害

- ・半盲: 視野の片側半分が見えなくなる
- ・視野欠損: 見える部分が欠ける
- ・複視: 物が二重に見える

【高次脳機能障害】

運動、感覚など基本的機能よりもより高いレベル(高次)の脳機能が障害される

◆失行

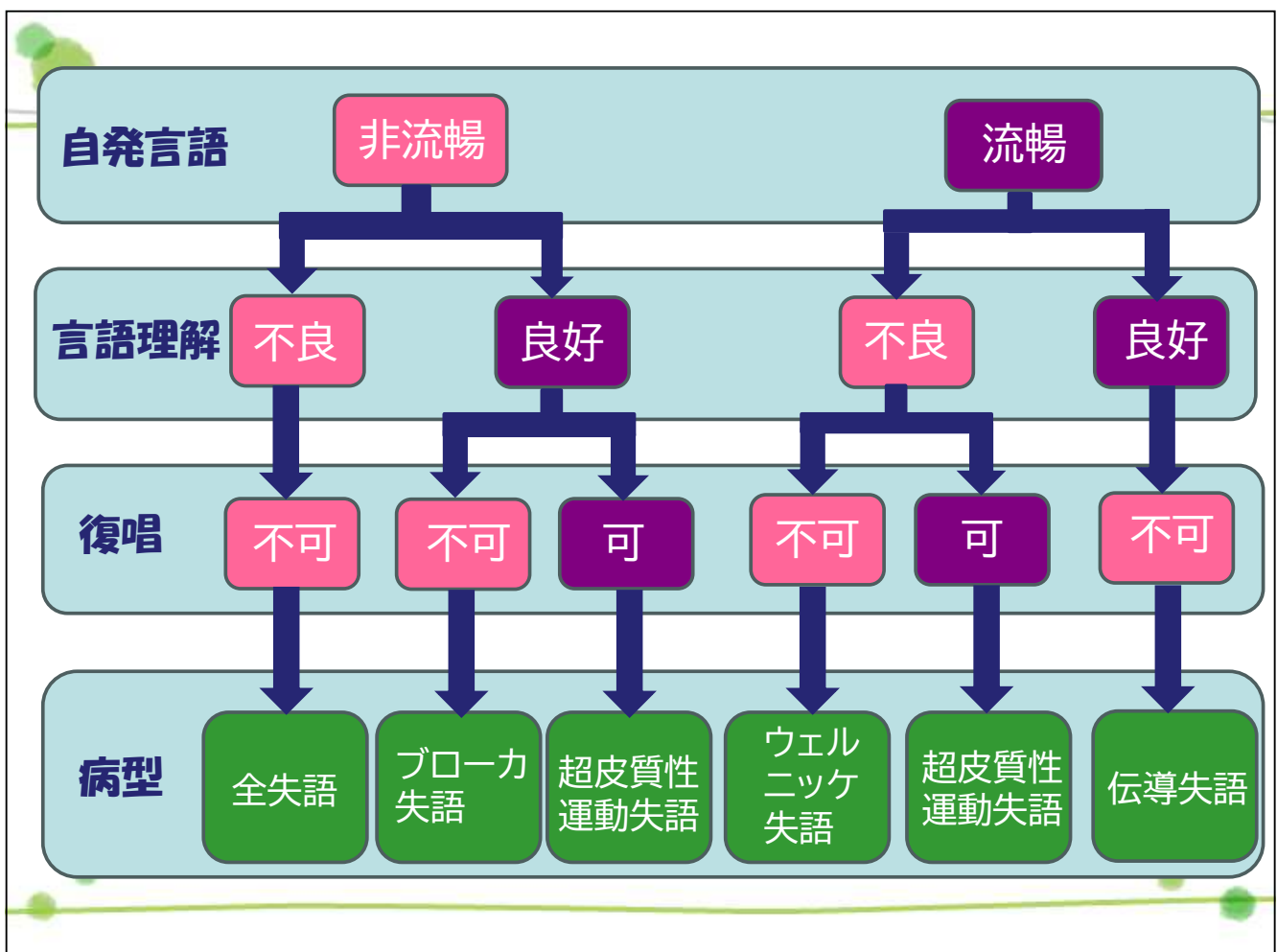
- ・運動機能障害がないにもかかわらず、自分のやりたい動作や運動、行為などが思っているようにできない状態
運動失行、着衣失行 などがある

◆失認

- ・視覚、聴覚、触覚などの感覚障害がないのに、対象物が何であるか認識できない状態
半側空間無視、地誌的失認、物体失認、聴覚失認など

◆言葉の障害:失語

- ・言葉の理解や表現ができなくなる
- ・ブローカ失語(運動性失語)
相手の言葉は理解できるが、発語するのが難しい
- ・ウェルニッケ失語(感覚性失語)
言葉が聞こえているが理解できなくなる
- ・健忘失語
理解力は良好だが、適切な言葉や物の名前が思い出せず回りくどい話し方になる
「あれ」「それ」という表現が多くなる
- ・伝導失語:理解力は良好だが言い間違いをする
「めがね」を「ねがね」など
- ・全失語



【記憶障害】

日時、場所、人の名前が覚えられない、新しいことが覚えられない、過去に経験したことが思い出せないなど

【注意障害】

集中力にかけて注意が散漫になり、一つの事に集中できない、ぼんやりとした状態となり、反応が遅くなったりする
2つのことを同時にしようとすると混乱する

【遂行機能障害】

物事や行動を計画し、順序だてて行うことができなくなる

【判断力の低下】

物の共通点や違い、物事の善悪が分からなくなる

【精神症状】

◆うつ状態

- ・脳の損傷の影響
- ・病気のショックが原因で起こることもある
- ・脳血管疾患発症後しばらくたってから起こることが多い
- ・特徴： 意欲の低下、活動性の減退が目立つ

◆不安

- ・病気、障害、今後の生活などに対する不安など

◆感情障害

- ・感情が不安定になる(感情失禁など)
- ・人によっては性格が変わるケースもある

◆意欲の低下

- ・自発性、積極性の低下
- ・家族、スタッフに依存的になる など

◆病識不十分

- ・自分の障害を十分に認識できない

➡ 転倒、転落のリスク

◆せん妄・幻覚

3. 脳血管疾患の予防

脳血管疾患は再発すると予後が悪くなる

同じ部位で再発を起こすことは稀
ほとんどは別の場所(部位)で再発する



危険因子を減らすことが重要

高血圧、糖尿病、脂質異常症の3大生活習慣病
喫煙、過度の飲酒、運動不足などの生活習慣
心房細動(不整脈)
メタボリックシンドローム

【高血圧】

血管に大きな圧力がかかる



血管の内皮細胞が傷つく



その部分の血管壁の中に

コレステロール等の脂肪物質が溜まる



溜まった脂肪物質が何らかの原因で崩れる



血栓ができる(脳梗塞)

高い血圧が血管にかかり続ける



硬くなった血管壁がこぶのように膨らむことがある

(動脈瘤)



動脈瘤が高い血圧に耐え切れなくなり破れる



脳出血

【糖尿病】

血液中のブドウ糖が増えすぎる



血管壁にある内皮細胞に入り込む



活性酸素が発生し、血管を傷つける



傷の部分からLDLコレステロールと白血球が血管壁に溜まる



動脈硬化

【脂質異常症】

血液中にコレステロールなどの脂質が多い状態が続く



血管壁に余分な脂が沈着（プラーク）



比較的短時間で血管壁に溜まるため、
柔らかくて壊れやすい



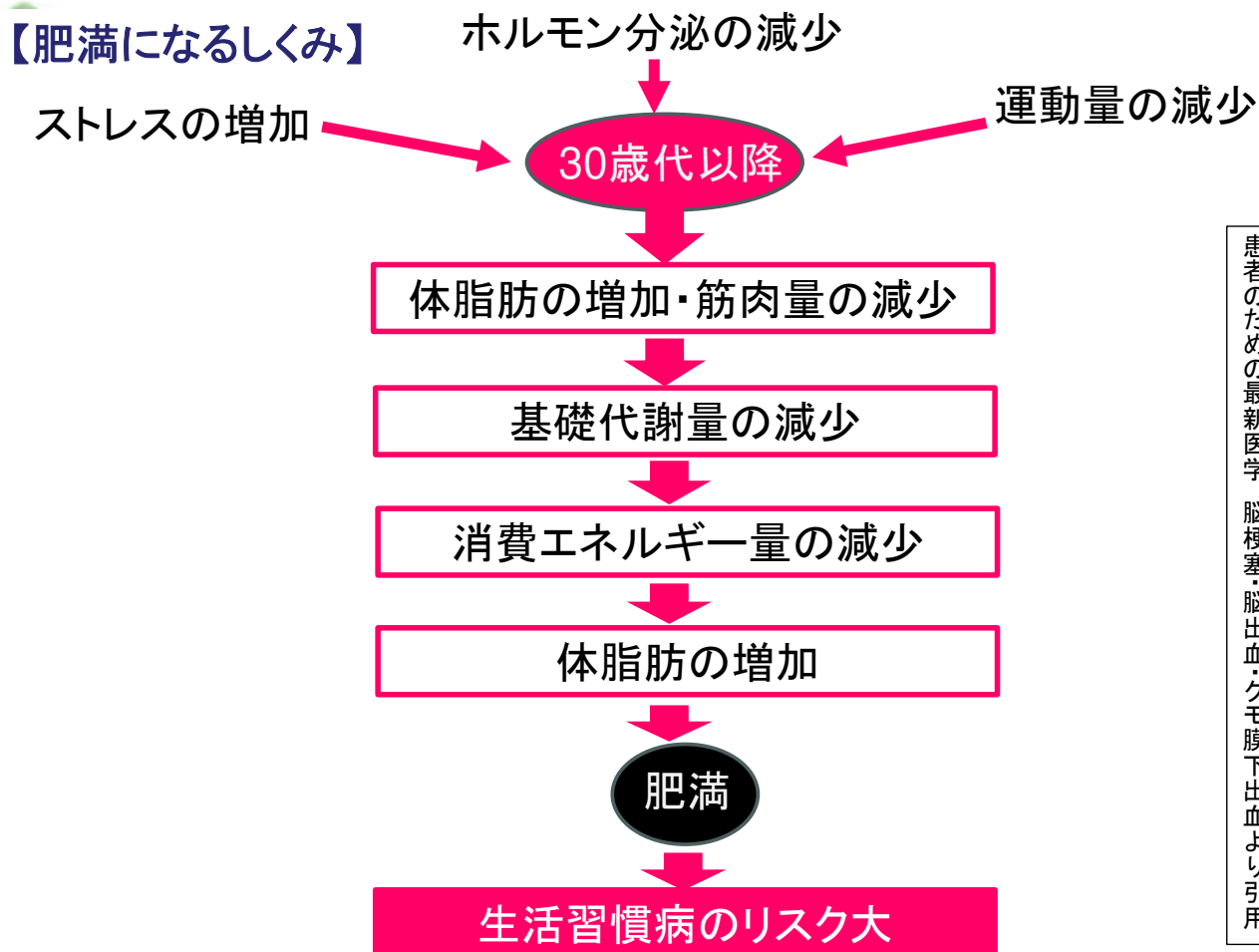
時間の経過とともに血管壁が厚くなる



動脈硬化



血栓



4. TIA(一過性脳虚血発作)

一時的に脳の血流が悪くなり、神経症状が現れる発作のこと

通常は1時間～24時間以内に症状は消失する

TIAは脳梗塞の前触れ発作とも言われる

TIA発症後90日以内に15～20%が脳梗塞を発症
うち、半数が2日以内に発症

速やかに医療機関を受診！

【TIAの症状】

- ◆急に手の力が抜けて、持っている物を落としてしまう
- ◆片方の手足がしびれる。または感覚が鈍くなる。
- ◆めまいがしてまっすぐに歩けない。ふらつく。
- ◆力はあるのに立ち上がれない。歩けない。
- ◆呂律がまわらない。うまく言葉がでてこない。
- ◆相手の言うことがよく理解できない。
- ◆文字が思うように書けない。
- ◆物が二重に見える。
- ◆片側の目の視力が落ちて、良く見えない。

今日のまとめ

★要介護状態の予防、悪化予防のためには、
脳血管疾患の予防が重要！

もし、発症した場合も、早期発見により
重症化予防ができる可能性もある

★そのためにも、
脳血管疾患の**症状を理解**しておくこと
その**症状に気づく**ことが大切です

【参考・引用文献】

全国健康保険協会 健康サポート 生活習慣病と⑦その予防 気になる病気辞典
脳血管疾患 <https://www.kyoukaikenpo.or.jp/g5/cat450/sb4502/p012/>

「患者のための最新医学 脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血」 2022年6月5日発行
監修:東京済生会中央病院院長 高木 誠 発行所:株式会社高橋書店

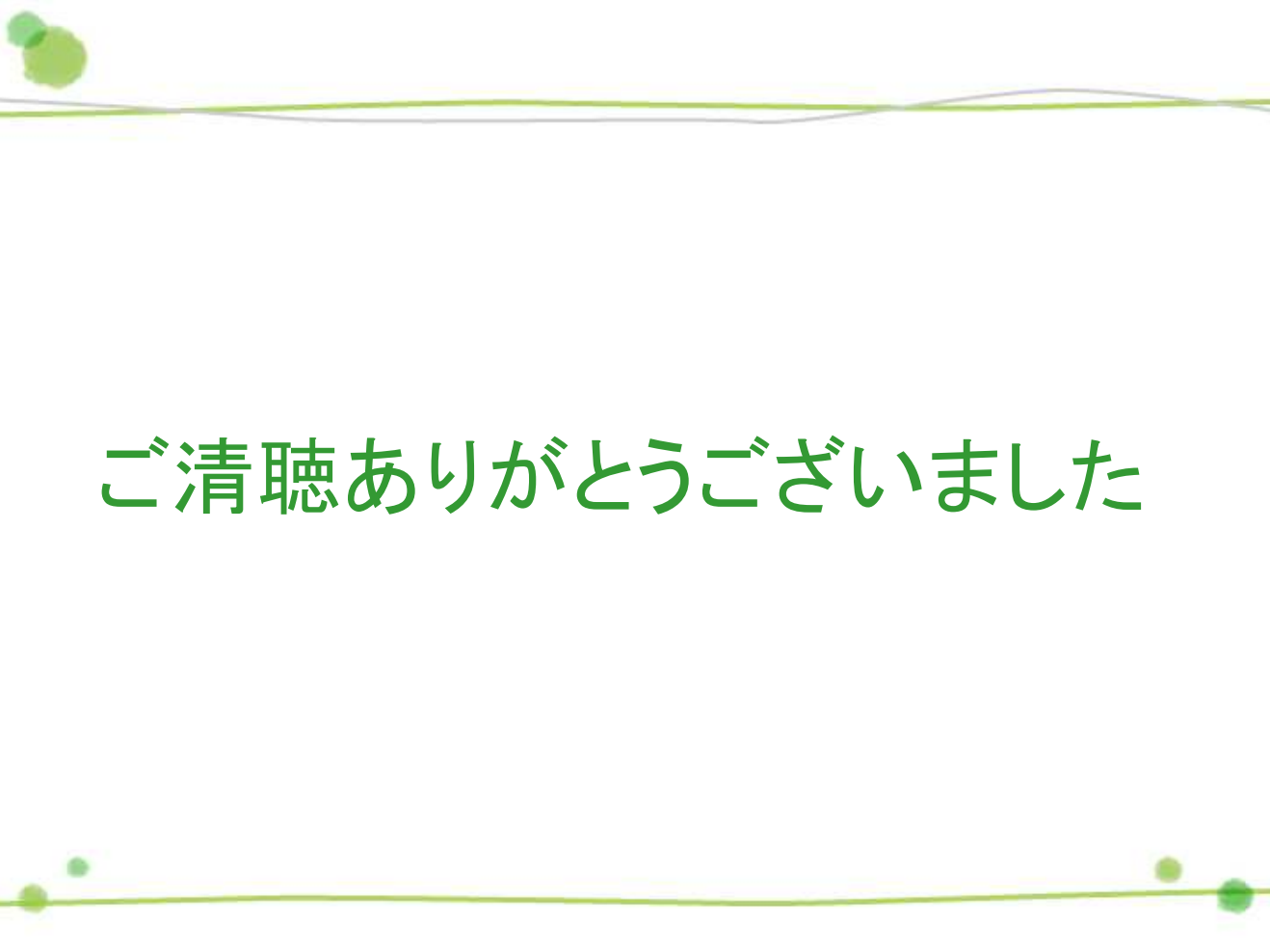
「急性期の検査・治療・看護・リハビリまで やさしくわかる脳卒中」 2019年2月13日発行
監修:小島記念病院病院長 永田 泉 発行所:株式会社照林社

介護職のための医療知識講座

今年度の予定

4回目:令和7年2月18日(火)19:00～
「脳血管疾患(前編)」

5回目:令和7年3月12日(水)19:00～
「脳血管疾患(後編)」



ご清聴ありがとうございました